



いろいろな方法でコミュニケーション

< 1 学期終業式 校長の話 > 校長 鈴木 裕子

1 学期、皆さんは様々な行事や学習に取り組み、新しいことに挑戦したり、得意なことや好きなことを増やしたりしました。全員に共通の思い出の鑑賞会「ハンドサインコンサート」では、魅力的なパフォーマンスを楽しみ、「手話」への興味・関心も広がりました。

さて、神奈川県は、ろう者（手話を母語とする人）とろう者でない人が、互いを尊重しあい、一緒に仲良く暮らしていく社会を実現するため手話を普及することを決めています。茅ヶ崎養護学校で学んでいる皆さんも、いろいろな方法でコミュニケーションをしています。

- 言葉や声
- 手話や身振り
- 指差しや視線・表情
- 写真や絵カード
- タブレットや音の出る機械



これからもいろいろな自分の気持ちをもっと上手につたえられるよう学んでいきましょう。そして、可能なら、相手のコミュニケーション方法を尊重し、相手の気持ちを受け取ること・相手に合わせた方法を使うことにも挑戦していきましょう。

夏休み中は、日頃なかなか会えない人に会ったり、学校では経験できないことに取り組んだり、少し、のんびりしたり、みなさんが充実した特別の 1 日 1 日を過ごすことを願っています。みなさんといろいろな方法でコミュニケーションできる 9 月の再会を楽しみにしています。

HAND SIGN コンサート

6 月 29 日（木）本校体育館において P T A 主催のコンサートが開催されました。

「僕が君の耳になる」等のビデオにほろっとしたり、その主題歌に合わせて手話を交えた巧みなダンスパフォーマンスを堪能したり、教えてもらった振付部分を一緒に踊ったり、手話で「ありがとう」を練習したりと、あっという間に時間が過ぎました。途中音楽が消えダンスのみで舞台が進む聴覚障害の疑似体験は、HAND SIGN ならではの企画でした。



● 6月23日（金） 平成29年度 第1回学校評議員会議

学校評議員制度は、校長が、学校の教育活動や学校運営についての意見を幅広く伺い、適正な学校運営に努めるための仕組みです。

平成29年度 茅ヶ崎養護学校 学校評議員 50音順

(新規) 佐々木幹夫 様	西久保自治会 副会長
(継続) 佐藤 広美 様	茅ヶ崎養護学校 PTA 会長
(継続) 遠田 千穂 様	富士ソフト企画株式会社
(継続) 野上美津子 様	茅ヶ崎市立浜之郷小学校長
(継続) 松永 徹 様	児童発達支援センター うーたん施設長
(継続) 村山 拓 様	東京学芸大学総合教育科学系 准教授

今回は、「失敗から学ぶには～」から議論が広がりました。一部を紹介します。

○特別支援学校卒業生で就労された方の事例を紹介する。初めて会った人たちとの場で指示と異なった行動があり、それが指摘された時に過剰に反応し怒り出してしまふ例があった。「ほめて育てる」だけでは、育たない力を、課題に感じた。

○子どもたちは失敗からは学びにくい。まずは失敗をさせないこと、できることの積み重ねが大事。「失敗しても大丈夫」という安心感には、まず、自己肯定感や自信・自尊感情が土台になる。

○はじめはうまくできなくても、学校での学習を通して「楽しんでいます」という評価に変わっている事柄がある。

これからも学校での色々な経験を期待している。

○「評価されないこと」「苦手なこと」「失敗」を周りの人から支えてもらえることが大切。

<SOSを出せるようにする><「助けて」といえる先を増やしていく>指導に期待している。



B小5・6年 シャボン玉水族館

● 7月4日（火） 交流（本校 AB 中学部・円蔵中学校2年）

中学校生徒の礼状から抜粋

・養護学校のみんなとの壁を壊せて、自分の目標を達成できたと思います。次に「助けて」などと、声をかけられたらすぐに手を差し出そうと思います。

・最初は、緊張してしまっていてどうしようか、すごく困っていました。でもその時、茅ヶ崎養護学校の子から話しかけてきてくれて、すごくうれしかったです。その後すごく仲良くなれました。

・私は、この1日を通して、しゃべれなくても、表情や雰囲気でお互いのことを信頼できるようになれるということを知りました。

・一番印象に残っていることは、給食を一人一人に合った形で出したり、はしやフォークをその人に合わせて変えたりといろいろな工夫がされていたことです。